

みんなでつくる森の学び場 ～里山保育「ぐーりりの森のこどもえん」

つづける助成

1年目

実践

こどもの参加者 **270人**

森の整備面積 **4ha**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **30%**



みんなで作った樹上基地「クマサカハウス」

活動内容と成果

毎月1～2回のペースで、里山保育「ぐーりりの森のこどもえん」を週末に開園し、計15回、270人の参加を得ることができた。また、臨時こどもえんとして、団体の受入れを2回（参加計20人）、出張こどもえんとして出前授業や出店を3回（参加計82人）行い、この活動だけで前年度の環境教育活動全体の参加者を上回るなど、多くの子ども達に森に通う機会を創出できたといえる。

子ども達は、通う程に、初参加の子を案内したり、〇〇をしよう！と希望を言ったり、生き物のサインに気づいたりといった成長も見受けられる。



みんなで森の循環を考える
マーケットを開催

課題

人の暮らしが自然から乖離し、里山は荒廃した。子ども達がのびのびと遊び学べる環境も明らかに劣化し、本来自然の中で育まれるべき感性や生きる力が十分に養われない。

目標

森林整備とその材を活かした学び場づくりとを並行して行う。年間を通じた里山保育活動により、子ども達が森に通う機会が増え、自然への愛着と仲間意識を持つようになる。



今後の
展望

保護者を巻き込み様々な企画を実施し、主体的に関わってもらえる仲間作り力を入れる。大人向けWSや整備・設営作業を「こどもえん」と同時開催し、大人が働く傍らで子どもが遊ぶという、里山集落のような園を作る。

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

里山保育活動を安全に行うためのスタッフ人数が前もって確保できず、開催日がなかなか決められずに十分に広報できなかった。

■工夫した点

保護者の活動への介入を制限せず、むしろ保護者向けWSを開いたり、整備活動を手伝ってもらうことで、見守り体制を強化した。

| 活動地域 |  新潟県

〒959-1931
新潟県阿賀野市山寺794-499
E-mail: shelter@tiny.jp
<http://shelter.tiny.jp/>

